

參考資料

1. インタビューワークで使用した図書のリスト

No.	本のタイトル	著者名
1	『翻訳できない世界のことば』	著：エラ・フランシス・サンダース、訳：前田まゆみ
2	『生き物としての力を取り戻す 50 の自然体験』	監修：カシオ計算機株式会社
3	『Shoji Ueda』	著：植田正治
4	『好きな食べ物がみつからない』	著：古賀及子
5	『Saul Leiter The Centennial Retrospective』	著：ソール・ライター、マーギット・アープ、マイケル・パリロ
6	『PIG 05049』	著：Christien Meindertma
7	『どもる体』	著：伊藤亜紗
8	『休むヒント。』	著：群像編集部
9	『父のアルバム』	著：野口里佳
10	『料理』	著：高山なおみ
11	『TOKYO STYLE』	著：都築響一
12	『手の倫理』	著：伊藤亜紗
13	『ナマケモノのいる森で』	著：ソフィー・ストラディ、しかけ：アヌック・ボワロバール、ルイ・リゴー
14	『ともだち』	著：谷川俊太郎、和田誠
15	『世界の図書館を巡る』	編集：ゲシュタルテン
16	『くらしのこよみ』	編：うつくしいくらしかた研究所
17	『ATL』	著：Mark Steinmetz
18	『モモ』	著：ミヒヤエル・エンデ
19	『あたしとあなた』	著：谷川俊太郎
20	『Kanon』	著：山上新平
21	『アーケードゲーム・タイポグラフィ』	著：大曲都市
22	『よあけ』	著：ユリー・シュルヴィッツ
23	『Sunny』	著：松本大洋
24	『雪のうた』	編：左右社編集部
25	『喫茶店の水』	著：qp
26	『叢の視点』	著：小田康平
27	『アンリミテッド: コム デ ギャルソン』	著：清水早苗、NHK 番組制作班
28	『アイスの旅』	著：甲斐みのり
29	『傷を愛せるか』	著：宮地尚子
30	『ぼく』	著：谷川俊太郎、イラスト：合田里美
31	『Act of Love』	監修：上田恵介、小宮輝之、大淵希郷ほか
32	『心はどこへ消えた？』	著：東畑開人
33	『焚き火大全』	著：吉長成恭
34	『まばたき』	著：穂村弘、イラスト：酒井駒子
35	『Savoir & Faire 土』	編集：エルメス財団

No.	本のタイトル	著者名
36	『季節を脱いで ふたりは潜る』	著：菅原敏
37	『クレーの絵本』	著：パウル・クレー、谷川俊太郎
38	『風の谷のナウシカ』	著：宮崎駿
39	『デジタルで読む脳 × 紙の本で読む脳』	著：メアリアン・ウルフ
40	『GIFT』	著：片山真理
41	『せいめいのれきし』	著：バージニア・リー・パートン、訳：いしいももこ
42	『火の鳥』	著：手塚治虫
43	『ぼくはこうやって詩を書いてきた』	著：谷川俊太郎
44	『マンガ！大英博物館マンガ展図録』	著：ニコル・クーリッジ・ルーマニエール
45	『JAZZ SONG BOOK』	著：五味太郎
46	『伊丹十三の台所』	著：伊丹十三
47	『数学する身体』	著：森田真生
48	『THE TOKYO TOILET BOOK』	
49	『静寂とは』	著：アーリング・カッゲ
50	『中学生から知りたいパレスチナのこと』	著：岡真理、小山哲、藤原辰史
51	『あらがうドラマ』	著：西森路代
52	『あさになったのでまどをあけますよ』	著：荒井良二
53	『戦争は女の顔をしていない（コミック版）』	著：小梅けいと、原作：スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ
54	『発酵文化人類学』	著：小倉ヒラク
55	『うるさく、しずかに、ひそひそと』	著：ロマナ・ロマネーシン、アンドリー・レシヴ
56	『スタジオ・オラファー・エリアソン キッチン』	著：Studio Olafur Eliasson
57	『Family of Man』	著：Edward Steichen
58	『Creature』	著：Andrew Zuckerman
59	『この星の光の地図を写す』	著：石川直樹
60	『動いている庭』	著：ジル・クレマン
61	『熊谷守一画文集 ひとりたのしむ』	著：熊谷守一
62	『センス・オブ・ワンダー』	著：レイチェル・カーソン
63	『堀部安嗣作品集Ⅱ』	著：堀部安嗣
64	『生きているのはなぜだろう。』	著：池谷裕二、田島光二
65	『Paul Rand: A Designer's Art』	著：ポール・ランド
66	『雪を作る話』	著：中谷宇吉郎
67	『平行植物』	著：レオ・レオーニ
68	『ねこに未来はない』	著：長田弘
69	『ON READING』	著：アンドレ・ケルテス
70	『それでも日本人は「戦争」を選んだ』	著：加藤陽子
71	『料理集 定番』	著：細川亜衣
72	『工芸青花 3号』	編：菅野康晴、衣奈彩子

No.	本のタイトル	著者名
73	『どんなかんじかなあ』	著：中山千夏、和田誠
74	『ポテト・ブック』	著：マーナ・デイヴィス
75	『世界名言集』	編集：岩波文庫編集部
76	『二十億光年の孤独』	著：谷川俊太郎
77	『79歳、食べて飲んで笑って』	著：桜井莞子
78	『波』	著：ヴァージニア・ウルフ
79	『ティファニーのテーブルマナー』	著：ウォルター・ホーピング、J.ユーラ
80	『数と夕方』	著：管啓次郎
81	『働くことの哲学』	著：ラース・スヴェンセン
82	『新版 呼吸の本』	著：加藤俊朗、谷川俊太郎
83	『FOOD RULES』	著：Michael Pollan、Maira Kalman
84	『僕のとべもの日記』	著：麻生要一郎
85	『スラムダンク』	著：井上雄彦
86	『自分の感受性くらい』	著：茨木のり子
87	『歲月』	著：茨木のり子
88	『地球にちりばめられて』	著：多和田葉子
89	『1984年』	著：ジョージ・オーウェル
90	『SNS時代のカルチャー革命』	著：竹田ダニエル
91	『自然派ワイン入門』	著：イザベル・レジュロン
92	『ウー・ウェンの100gで作る北京小麦粉料理』	著：ウー・ウェン
93	『朝食の本』	著：細川亜衣
94	『夜明けのすべて』	著：瀬尾まいこ
95	『台所探検家、地球の食卓を歩く』	著：岡根谷実里
96	『おいしいもんには理由がある』	著：土井善晴
97	『シンギュラリティはより近くに』	著：レイ・カーツワイル
98	『自分のために料理を作る』	著：山口祐加、星野概念
99	『SONY DESIGN MAKING MODERN』	著：ディヤン・スジック
100	『戦争とデザイン』	著：松田行正
101	『愛するということ』	著：エーリッヒ・フロム
102	『歩くことの哲学』	著：ラース・スヴェンセン
103	『味がある。』	著：マメイケダ
104	『エル・スール』	著：アデライダ・ガルシア＝モラレス
105	『一人称単数』	著：村上春樹
106	『新訳 星の王子さま』	著：サン＝テグジュペリ、訳：小島俊明
107	『YOKAI NO SHIMA』	著：シャルル・フレジェ
108	『日常を探検に変える』	著：トリスタン・ダリー
109	『検索から生成へ』	著：清水亮

No.	本のタイトル	著者名
110	『オン・ザ・ロード』	著：ジャック・ケルアック
111	『Philippe Halsman's Jump Book』	著：Philippe Halsman
112	『ALL about Saul Leiter』	著：Saul Leiter
113	『In Plain Air』	著：Irina Rozovsky
114	『変わらない店 僕らが尊敬する昭和 東京編』	著：井川直子
115	『透明人間 再出発』	著：谷郁雄、写真：青山裕企
116	『そんなふう』	著：川内倫子

2. アンケート設問項目

(1) 一般アンケート

あなたご自身についておたずねします。

1. あなたの年齢を教えてください。

- 18 歳未満
- 18～29 歳
- 30～39 歳
- 40～49 歳
- 50～59 歳
- 60～69 歳
- 70 歳以上

2. お住まいの地域はどちらですか。（丁目まで記載をお願いいたします）

（ 丁目 ）

新設図書館についておたずねします。

新設図書館は、本の貸出や館内での読書をはじめ、学び合いや研究を深める場、地域コミュニティの場として会話のできる場や居場所としての利用、出合いや多世代の交流の場を創出し、多様な活動ができるように計画しています。

3. 新設図書館ができたなら、どのように使いたいですか。全て選んでください。

- 本を探して読みたい
- 立ち寄ったときに思いがけない本を発見したい
- 普段、自分では買わないような大型の本や高額な本を読みたい
- 全区立図書館の予約受取の場として活用したい
- 学習スペースとして利用したい
- グループで学習会をしたい
- 居場所としてゆっくり過ごす場所としたい
- 館内で友人や家族と会話をしながら過ごしたい
- 地域の行事など情報収集の場にしたい
- 親子の居場所や子どもに読み聞かせをして過ごしたい
- 必要な資料・情報を得るため、専門スタッフに相談したい
- その他（ ）

4.新設図書館を利用するにあたって、どんな本があると良いですか。3つまでお答えください。

- 新刊本や話題になっている本がいつでも館内で読めるようにしてほしい
- 健康、経済、社会、科学、DX など暮らしに役立つ図書を幅広くおいてほしい
- 文学、歴史などを豊富にほしい
- 写真集や美術書などを豊富にほしい
- 法律、事典、学術書のような調査・研究資料を豊富にほしい
- 地域の歴史や経過、新たな情報等に関する資料をほしい
- 進学ガイドや参考書など学習に役立てられる本をほしい
- 子ども向けの絵本・児童書を豊富にほしい
- マンガ本をほしい
- 新聞をほしい
- 雑誌をほしい
- その他（ ）

普段の生活や本との関わりについておたずねします。

5.普段の生活の中で興味のあること、気になっていることは何ですか。3つまでお答えください。

- 新聞・ニュースで話題になったこと
- DX・AI・ロボット・テクノロジー
- 歴史・文化
- 経済・お金
- 自己啓発・キャリアプラン
- 人間関係・人付き合い
- 健康・病気
- スポーツ・ウォーキング・ストレッチ
- 旅行・観光・街歩き
- 自然環境・植物・生きもの・ペット
- アウトドア・家庭菜園
- 美容・ファッション
- 料理・食
- 子育て
- 介護
- 音楽・映画・舞台・芸能
- 写真・カメラ・映像制作
- 美術・デザイン・アート・建築・インテリア
- 漫画・アニメ・ゲーム・サブカルチャー
- その他（ ）

6.読む本を選ぶ場合に、重視する点は何ですか。2つまでお答えください。

- 好きな著者・シリーズの本である
- 好きなジャンルである
- 表紙のデザインが魅力的である
- あらすじ、試し読みなど少し内容を読んで
- 口コミやレビューなどの評価が高い
- 家族や知人、好きなアーティスト等からの紹介
- 学習・仕事・資格取得・趣味のために必要
- その他（ ）

7.新設図書館では、部分的に配架（本を書棚に並べること）に工夫をこらすことでより多くの方々に来てもらいたいと考えています。下記のうち、どれが本を選びたくなりますか。2つまでお答えください。

- 表紙を見て視覚的に本を選びたい
- 背表紙の文字情報の中から本を選びたい
- 大型モニター上で再現したデジタル書架等で、区内所蔵の約 85 万冊の中から図書を選びたい
- 大型モニター上で再現したデジタル書架等で、電子図書を選びたい

8.普段、図書館を利用しますか。最も当てはまるものを選んでください。

- 週に3～4回以上
- 週に1～2回程度
- 月に1～2回程度
- 年に数回程度
- 利用したことがないまたはほとんど利用したことがない
- ほとんど利用したことがないが、新設図書館ができれば利用したい

9.普段、どのくらいの頻度で本を読みますか。

- ほぼ毎日
- 週に1～数回程度
- 月に1～数回程度
- 全く読まない・ほとんど読まない

10.新設図書館に並べる本や展示方法について、ご希望があればお聞かせください。

(2) 児童・生徒アンケート

あなた自身についておたずねします。

1 あなたの通う学校を教えてください。

- 常磐松小学校
- 広尾小学校
- 加計塚小学校
- 広尾中学校

2. 学年を教えてください。

- 小学1年生
- 小学2年生
- 小学3年生
- 小学4年生
- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生

新しい図書館についておたずねします。

新しい図書館は、本の貸出・読書、学び合いだけでなく、おしゃべりができたり、自由に過ごせたり、出会いや交流などが生まれるように計画しています。

4. 新しい図書館ができたなら、どんなことをしたいですか。いくつでも選んでください。

- 本を探して読みたい
- 面白い本を見つけたい
- 宿題・勉強をしたい
- 自由に過ごす場所としたい
- 友達とおしゃべりをして過ごしたい
- 工作・プログラミングをしたい
- その他 ()

5.新しい図書館を使うとき、どんな本があると良いですか。3つまで選んでください。

- 学習に役立つ本をおいてほしい
- はやっているものが分かる本をおいてほしい
- 遊び・趣味を広げられる本をおいてほしい
- マンガなど面白い本をおいてほしい
- 部活動に役立つ本をおいてほしい
- 将来なりたい職業についての本をおいてほしい
- 知らないことを教えてくれる本をおいてほしい
- その他 ()

6.次のうち、本を手に取りたくなるものはどれですか。

- たくさんの本の表紙がよく見えるように並んでいる
- いろいろな本が、本だないっぱいに並んでいる

7.新しい図書館のスタッフにどんなことを希望しますか。3つまで選んでください。

- 宿題・勉強が分からないときに、教えてくれる
- 読みたい本がどこにあるか、教えてくれる
- 面白い本やおすすめの本を教えてくれる
- いろいろな本を読んで聞かせてほしい
- いろいろな相談にのってほしい
- その他 ()

8.新しい図書館への希望があれば教えてください。

3. Forms アンケートで紹介した本とテーマ

- Forms アンケートでは、回答のお礼として設問の最後にテーマに沿った本を紹介しました。LINE アンケートは仕組み上設問数を絞る必要があったため、今回は Forms 限定で実施しました。
- 「好きなテーマを選んでください」という設問文で、5 つのテーマから好きなものを選んでもらい、次の画面で、そのテーマで選書したおすすめの本を 3 冊掲載しました。
- Forms 回答者 464 人の内 444 人がいずれかのテーマを選択し、各テーマを選んだ人数結果は以下のとおりでした。紹介した本と紹介文は次ページに掲載します。

No.	テーマ	選んだ人数	感想（抜粋）
1	また本を読みたいとき、 頼りになる 1 冊	164 人	<ul style="list-style-type: none"> 長い読書、世界の図書館を巡る、を読んてみたい。 どれも面白そう 本屋もどんどん減っているの、ふと気になる本に出会うチャンスがなくなってしまったと思います。 どれも知らない本ばかりでした。読んてみたいです。 自分では中々 選択しないので、手にとつてみたい。
2	悩んだとき、 ひと味違つた答えが もらえる	110 人	<ul style="list-style-type: none"> コジコジにきいてみた。読んてみたいです。 蛭子さんの一冊が面白そうです！ ありがとうございます。図書館で探してみます。また別のジャンルも選択してみたかったです。 人類滅亡がタイトルに惹かれます。
3	人と人との ちよつどいい関係を 考える	64 人	<ul style="list-style-type: none"> 手の倫理、読んてみたいです。 『ともだち』が気になりました。こちらなら、娘と一緒に読んて話し合いができそうだと思います。 興味関連本の紹介、うれしい機能です。
4	子どもといっしょに育つ、 笑う	55 人	<ul style="list-style-type: none"> お礼として本を紹介してくれるのは、面白いですね。 情報があふれる今だからこそ、信頼できる情報が大切です。『内臓とこころ』は題名から気になりました。また本を読む良いきっかけを頂きました。 リンクを全ててみます。
5	五感で味わう、 色や形や空間	51 人	<ul style="list-style-type: none"> 大人にも響く絵本、図書館にて手にとつてみたくなりました。 どれも良いのですが、書店では買えない本を図書館で読みたい。 全部良いですね。スクショしました。 素敵なギフトありがとうございます。手に取つてみます。 このようにお勧めして下さるサービス、とても良いですね！

各テーマで紹介した本

また本を読みたいとき、頼りになる 1 冊

■『長い読書』 著：島田潤一郎（みすず書房）

ひとり出版社「夏葉社」を営む島田潤一郎さんによる 37 篇のエッセイ集です。子ども時代から現在に至るまで、本とともに歩んできた日々や、本を読むことの意味、家族や仕事との関わりが、静かで滋味深い筆致で綴られています。読書の喜びや苦しみ、人生のささやかな瞬間が丁寧に描かれ、読む人の時間や記憶と静かに交わることでしょう。

■『本は読めないものだから心配するな』 著：管啓次郎

本書では、膨大な本の前で「全部は読めない」と肩の力を抜き、読めなくても、忘れてしまっても大丈夫だと語りかけます。本の内容や読書体験は、人生や世界と絶えずつながり、読むこと自体が終わりのない旅であると示します。古今東西の本や土地、文化へのまなざしを交え、読む人に「また本を読みたくなる」勇気と自由を与えてくれる一冊です。

■『世界の図書館を巡る：進化する叡智の神殿』 編：gestalten、訳：ヤナガワ智予

世界 53 ヶ所の図書館を美しい写真とともに紹介し、それぞれの唯一無二の魅力を伝えるビジュアルブックです。現存する世界最古の図書館で進む貴重な写本のデジタル化、砂漠の過酷な気候と戦いながら本を守る日干しレンガの図書館、チベット大蔵経を収める僧院、宇宙船のような近未来建築、バーチャル空間で検閲と戦うウェブ図書館など、図書館の使命や役割、これからのあり方についても考えさせられる一冊です。

悩んだとき、ひと味違った答えがもらえる

■『蛭子能収のゆるゆる人生相談』 著：蛭子能収（光文社）

漫画家・蛭子能収さんが読者の悩みに本音で答える人生相談集です。世間体や常識にとらわれず、時に肩透かしなほど率直な回答が特徴で、悩みを深刻に考えすぎるとバカバカしくなる。けれど物事の本質を射抜く不思議な一冊です。お金や仕事、家族など幅広いテーマに、蛭子節全開の着眼でゆるゆる答えています。

■『人間滅亡の人生案内』 著：深沢七郎（河出書房新社）

作家・深沢七郎さんが世間に媚びない独自のユーモアと痛快な毒で人生を語るエッセイ集です。「人間として生きる」という言葉を疑い、世の固定観念を疑い、叶わぬ恋や仕事、将来の不安など、さまざまな悩みに対し、常識にとられない視点で答えます。あまりの破天荒さに最初は驚くかもしれませんが、だんだんその痛快で真摯な答えが癖になるかも…。

■『コジコジにきいてみた。モヤモヤ問答集』 著：さくらももこ（ブルーシブ）

さくらももこさんが生み出したキャラクター・コジコジが、100 のモヤモヤした疑問にコジコジ的視点で答える一冊です。可愛らしくとぼけた答えや思わず笑ってしまう返答もあれば、時に物事の芯を突く言葉も詰まっており、悩みや不安を抱える時に肩の力を抜いてくれます。読後、コジコジの正直さが世界の宝と考えるでしょう。そして、原作も読みたくなります。

人と人との、ちょうどいい距離感を考える

■『手の倫理』 著：伊藤亜紗（講談社）

人が人に「さわる」「ふれる」ときに生まれる交流や信頼、そしてその不確実性を考察した一冊。介助や子育て、教育、看取りなど多様な場面で、触覚が生み出す人間関係の創造的可能性を探ります。視覚偏重の倫理観を超え、具体的な接触の現場からふれるとは何かを問い直します。

■ 『愛するということ』 著：エーリッヒ・フロム、訳：鈴木晶（紀伊國屋書店）

「愛は生まれつきの感情ではなく、技術であり習練が必要」と説く一冊。自己愛や親子愛、恋愛など多様な愛のかたちを分析し、他者を本当に愛するにはまず自分自身を深く理解し、努力を重ねることが大切だと伝えます。人間関係や生き方に悩むすべての人に、愛を実践的に学ぶヒントを与えてくれる一冊です。

■ 『ともだち』 文：谷川俊太郎、絵：和田誠（玉川大学出版部）

谷川俊太郎さんのやさしい詩と和田誠さんのほのぼのとしたイラストで、「ともだちってどんな存在？」を問かける絵本です。「かぜがうつってもへいきだっていってくれるひと」など、日常の中の小さなエピソードを通して、友だちの大切さや温かさを幼児にもわかりやすく伝えます。

子どもといっしょに育つ、笑う

■ 『ぼくおかあさんのこと...』 著：酒井駒子（文溪堂）

うさぎの「ぼく」とお母さんの日常を通じて、子どもの素直な気持ちと親子の距離感を描いた絵本です。お母さんに不満をぶつけつつも、本当は大好きな「ぼく」の心情が丁寧に表現されています。また酒井駒子さんの絵には、世代を超え何度も読み重ねられる静かな時間が潜んでいます。

■ 『内臓とこころ』 著：三木成夫（河出書房新社）

「こころ」とは内臓に刻まれた宇宙のリズムである。と言われて驚きませんか？ 長年読み継がれてきたこの名著は、おねしょや空腹感などの内臓感覚が「快／不快」を始発とする人間の「こころ」を形づくる基盤となる理由を優しく解き明かします。生命進化の記憶が日々の生活に息づくことを示し、育児や教育、医療の意味を問い直します。

■ 『かずをはぐくむ』 著：森田真生（福音館書店）

数学者・森田真生さんが3歳と0歳のきょうだいと過ごした日々を通して、子どもの心に「数」がどのように生まれ、育まれていくかを見つめたエッセイ集です。数は遠いところにある概念ではなく、すぐ近くにある。日常の驚きや発見を親子で共有しながら、数の世界を子どもとともに歩む喜びが丁寧に描かれています。

五感で味わう、色や形や空間

■ 『まるのおうさま』 文：谷川俊太郎、絵：粟津潔（福音館書店）

詩人・谷川俊太郎さんの言葉とグラフィックデザイナー・粟津潔さんの絵で、「まる」をテーマに展開する絵本です。お皿やタイヤ、オレンジ、運動会の玉など、さまざまな「まる」が次々と登場し、奇想天外なストーリーが広がります。シンプルながらも鮮やかな絵と言葉が、子どもの想像力と五感を刺激する一冊です。

■ 『目で見てかんじて：世界がみえてくる絵本』 著：ロマナ・ロマニーシン、アンドリー・レンヅ、訳：広松由希子（河出書房新社）

人間の目のしくみや働きだけでなく、動物や昆虫の「見る世界」にも迫る科学絵本です。生まれたばかりの赤ちゃんの視界から、ハエやフクロウ、犬や馬などさまざまな生き物の見え方までを、美しいグラフィックとともに紹介します。鮮やかな蛍光色を使ったデザインが、読むだけでなく眺めても楽しい、情報量とアイデア豊かな一冊です。

■ 『どんなかんじかなあ』 文：中山千夏、絵：和田誠（自由国民社）

目の見えない友だちや耳の聞こえない友だちなど、さまざまな立場の子どもたちの「感じ方」を想像しながら考える絵本です。「見えないってどんな感じ？」「聞こえないってどんな感じ？」と問いかけ、相手の気持ちを想像することの大切さを、やさしい言葉と和田誠の印象的な絵で伝えています。

あらゆる世代が学び続けられる学習の推進に向けて

誰もが立ち寄りたくなる図書館へ

本調査では、5,000 人を超える区民の方にアンケート等へご協力いただき、100 人以上の方々にワークショップにご参加いただきました。その結果、本との出会いの可能性を探るなど様々な角度からニーズを把握でき、多くの区民が図書館に関心を持ち、期待を寄せていることが明らかになっています。

1. 蔵書について

蔵書については、「新刊本や話題になっている本がいつでも館内で読めるようにおいてほしい」「くらしに役立つ本」という回答が多く、小中学生からは「マンガなど面白い本をおいてほしい」「遊びや趣味を広げられる本」という回答が多くありました。その他にも年代別や図書館利用頻度、読書頻度別に集計をしましたので、少ない回答にも着目しご意見を反映できるよう選書の工夫をしていきます。

2. 図書館の使い方・配架について

図書館の使い方に対して、「本を探して読みたい」「思いがけない本を発見したい」、小中学生では、「面白い本を見つけない」「本を探して読みたい」が多い回答でしたが、次いで「居場所としてゆっくり過ごす場所としたい」、小中学生では「自由に過ごす場所としたい」が多い回答であり、「居場所」というコンセプトを重視する必要があります。

本の配架については、多くの方が「表紙を見て視覚的に本を選びたい」と回答していましたが、次いで「大型モニター上のデジタル書架等で図書を選びたい」が多く、できるだけ多くの本の中から本を選べるような工夫が求められています。また、「背表紙の文字情報の中から本を選びたい」という方の回答にも注目し、面陳列との両立を目指す必要があります。

3. 図書館への期待について

図書館への期待として、スタッフへの要望、予約・受取方法についてシステムの利便性向上、展示内容のオンライン公開など情報提供のあり方、図書館での地域交流など幅広いご意見をいただいています。サービスの工夫で図書館をより親しみのある施設にする必要があります。

4. 新設図書館運営方針策定に向けて

新たに広尾中学校敷地内に設置される図書館の建築デザインは、館内を囲うように並ぶ書架や、スロープでゆるやかにつながる書架が特徴であり、本との出会い方を楽しめる設計となっています。地域の情報やコミュニティの拠点として、誰もが気軽に立ち寄りたくなる図書館を目指し、本調査結果を踏まえた運営方針の策定を進めていきます。

新設図書館選書配架計画調査報告書（詳細版）

発行 渋谷区学びとスポーツ部図書館事業課（中央図書館）
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目4-1



